

第3章 調査研究・報告

第3節 他誌掲載論文の抄録

特集記事：第 51 回環境保全・公害防止研究発表会

各座長によるセッション報告 (大気・騒音Ⅳ, その他Ⅰ)

村上友規

全国環境研会誌, 50(1), 22-30, 2025

本セッションでは、PM_{2.5}、大気粉じん中の六価クロム、およびアスベスト等の発表が行われた。PM_{2.5}に関する発表は、野焼きに関するものと無機元素に焦点を当てたものがあり、なかでも、前者はバイオマス燃焼の指標とされるレボグルコサンとPM_{2.5}濃度との相関関係を解析することにより、PM_{2.5}濃度上昇の要因を考察するものである。これにより、野焼きの削減およびすき込みへの転換を促進するための科学的根拠として活用可能となった。六価クロムに関する発表では、測定手法の精度向上に向けた検討がなされ、試料の採取および処理における適切な手法が示された。これらの成果は、2023年5月に改訂された六価クロム測定マニュアルに反映されており、今後のモニタリング体制の信頼性向上に資するものであった。また、アスベストに関する発表では、測定立入検査の優先順位を合理的に決定するための手法として、建物からの漏えい率を算出する試みがなされた。これにより、優先度の高い現場を事前に把握することが可能となり、限られた資源の中で効率的かつ効果的な立入検査の実施を可能とする実務的な知見が得られた。

特集記事：第 51 回環境保全・公害防止研究発表会

各座長によるセッション報告 (気候変動Ⅳ、生物Ⅰ)

杉本恭利

全国環境研会誌, 50(1), 22-30, 2025

本セッションでは、「森林生態系における新たな生物・環境モニタリング手法の検討」および「大分県沿岸域の海水温等に係る長期的なトレンドの解析」に関する発表が行われた。前題は、20年にわたり実施し得た知見や検討状況及び今後についての紹介が行われた。オゾン等による大気汚染の森林に対する影響をモニタリングする手法として、目視 衰退度は得られる知見が非常に限定で不十分であった。そこで、新たな手法である、オゾンの気孔取込み量をベースとした新指標を用いたモニタリングについて言及がなされた。後題は状態空間モデルを使用し、観測時の誤差の除外および欠測データの補間を行ったうえで、大分県沿岸域における真の海水温を推定したものであった。

特集記事：第 51 回環境保全・公害防止研究発表会

各座長によるセッション報告 (水環境Ⅲ)

井上ゆみ子

全国環境研会誌, 50(1), 22-30, 2025

本セッションでは、水環境に関する化学分析、里海づくり、マイクロプラスチックをテーマとする 5 題の研究発表があった。化学分析テーマでは、有機フッ素化合物 (PFAS) に関する 2 題と自動同定定量システム (AIQS-GC) による環境調査に関する 1 題があり、調査結果と汚染源や分析条件に関する考察がなされた。里海づくりをテーマとした発表では、瀬戸内海環境基本計画「きれいな海」から「豊かな海」への方針転換を受けたアサリの育成に関する研究であった。マイクロプラスチックに関する発表は、ガイドライン法の対象外となる微少な繊維状物質を分析する試みについてのもので、ガイドライン法で選択されるマイクロプラスチックとはポリマー種別割合が大きく異なるとの結果が報告された。

特集記事：第 51 回環境保全・公害防止研究発表会

各座長によるセッション報告 (気候変動Ⅳ、生物Ⅰ)

井上ゆみ子

全国環境研会誌, 50(1), 22-30, 2025

本セッションは、海域や河川における生物に関する 3 題の発表を扱った。1 題目は閉鎖性の強い湾内におけるアマモ場面積の測定に魚群探知機を用い、その有効性を確認するものであった。2 題目は、外来付着珪藻の国内河川における侵入状況を調査したもので、国内での初確認から数年を経て全国に生息域が拡大していることが報告された。最後の演題は、水環境管理に生物応答試験を地域特性に応じて導入する取り組みに関する検討で、未規制物質や未知の物質に対する調査手法として期待されるとの内容であった。